

作成日:2023 年 03 月 14 日

## 安全データシート

### 1.【製品及び会社情報】

カタログ番号 515033  
製品名 HD チェック コレクション キット  
会社名 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社  
住所 東京都港区赤坂 4 丁目 15 番 1 号  
連絡先 0120-8555-90  
推奨用途及び使用上の制限 ハザードガス・ドラッグによる環境汚染の迅速検査キット

### 2.【危険有害性の要約】

#### GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	可燃性エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過氧化物	区分に該当しない
	金属腐食性物質	分類できない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
	急性毒性(吸入・蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 3
絵表示	該当しない(分類できない)	
注意喚起語	該当しない(分類できない)	

危険有害性情報 長期継続的影響によって水生生物に有害

#### 注意書き

- |      |   |
|------|---|
| 安全対策 | • 環境への放出を避けること。                                 |
| 応急措置 |   |
| 保管   | • 換気の良い、冷暗所で保管すること。<br>• 容器を密閉しておくこと。           |
| 廃棄   | • 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。 |

### 3.【組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名または一般名	濃度 (%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
ポリ(オキシエチレン)セチルエーテル	1.5	9004-95-9	(7)-97	
ポリ(オキシエチレン)＝ドデシル＝エーテル	<1.0	9002-92-0	(7)-97	-

### 4.【応急措置】

- |           |   |
|-----------|---|
| 吸入した場合    | 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。半座位をとる。医療機関に連絡する。             |
| 皮膚に付着した場合 | 多量の水と石けんで洗うこと。<br>皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。               |
| 眼に入った場合   | 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| 飲み込んだ場合   | 口をすすぐ。気分が悪い時は、医師に連絡すること。                                    |

### 5.【火災時の措置】

- |             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 消火剤         | 周囲の物質に適した消火剤を使用                  |
| 使ってはならない消火剤 | 情報なし                             |
| 特有の危険有害性    | 火または過度の熱により、危険な分解生成物が生成される場合がある。 |
| 特有の消火方法     | 情報なし                             |
| 消火を行う者の保護   | 適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。            |

### 6.【漏出時の措置】

- |                       |                                    |
|-----------------------|------------------------------------|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 関係者以外の立ち入りを禁止する。<br>適切な保護具を着用すること。 |
| 環境に対する注意事項            | 環境中に放出してはならない。                     |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材       | こぼれた物質をふた付容器内に掃き入れる。               |

### 7.【取扱い及び保管上の注意】

- |          |   |
|----------|---|
| 取扱い      |   |
| 技術的対策    | 『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。<br>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 |
| 安全取扱注意事項 | 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。   |
| 接触回避     | 『10. 安定性及び反応性』を参照。  |
| 衛生対策     | 取扱い後はよく手を洗うこと。  |

**保管**

技術的対策	消防法の規制に従う。
混触禁止物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
安全な保管条件	容器は密閉して換気の良い冷暗所に保管する。

**8.【ばく露防止及び保護措置】**

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

**保護具**

呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

**9.【物理的及び化学的性質】**

物理的状態、形状、色など	液体
臭い	データなし
pH	データなし
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
引火点	データなし
可燃性	データなし
爆発下限及び爆発上限界／ 可燃限界	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
動粘性率	データなし
溶解度(水)	データなし
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	該当しない

**10.【安定性及び反応性】**

製品としての情報がないため以下、ポリ(オキシエチレン)＝ドデシル＝エーテルの安定性及び反応性情報を記載する。

ポリ(オキシエチレン)＝ドデシル＝エーテル

反応性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

**11.【有害性情報】**

製品としての情報がないため以下、ポリ(オキシエチレン)＝ドデシル＝エーテルの有害性情報を記載する。

ポリ(オキシエチレン)＝ドデシル＝エーテル

**急性毒性**

経口(ラット LD<sub>50</sub>) (1)～(3)より、区分4とした。

【根拠データ】

		(1)ラット(雌)の LD50(OECD TG 423, GLP) :300~2,000 mg/kg の間(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))
		(2)ラットの LD50:1,190 mg/kg(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))
		(3)ラットの LD50:1,000 mg/kg(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))
	経皮(ウサギ LD <sub>50</sub> )	(1)、(2)より、区分に該当しない。 【根拠データ】 (1)ラットの LD50(OECD TG 402, GLP) :> 2,000 mg/kg(REACH 登録情報 (Accessed May 2021)) (2)ラットの LD50(OECD TG 402) :> 2,000 mg/kg(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))
	吸入(蒸気)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性		(1)、(2)より、区分に該当しない。 【根拠データ】 (1)ウサギ(n=3)を用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404, GLP、半閉塞、4時間適用、72時間観察)において、皮膚刺激性はみられなかった(紅斑・痂皮スコア:0/0/0、浮腫スコア:0/0/0)との報告がある(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。 (2)ウサギ(n=3)を用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404、閉塞、4時間適用、14日観察)において、パッチ除去24時間後に全例に軽度の紅斑がみられたが、48時間後には回復した(紅斑・痂皮スコア:0.3/0.3/0.3、浮腫スコア:0/0/0)との報告がある(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性		(1)、(2)より、区分に該当しない。 【根拠データ】 (1)ウサギ(n=3)を用いた眼刺激性試験(OECD TG 405, GLP、14日観察)において、全例で7日後まで結膜影響がみられたが、14日後には回復した(角膜混濁スコア:0/0/0、虹彩炎スコア:0/0/0、結膜発赤スコア:1.7/1.7/2、結膜浮腫スコア:1/1.3/1)との報告がある(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。 (2)ウサギ(n=3)を用いた眼刺激性試験(OECD TG 405、21日観察)において、全例で角膜混濁及び結膜影響がみられた(角膜混濁スコア:0.7/0.7/0.7、虹彩炎スコア:0/0/0、結膜発赤スコア:1/1.7/1.7、結膜浮腫スコア:1/1/1)との報告がある(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。
呼吸器感作性		データ不足のため分類できない。
皮膚感作性		(1)より、区分に該当しない。 【根拠データ】 (1)51名を対象としたパッチテスト(10%、15%、20%溶液、閉塞)において、陽性反応はみられなかったとの報告がある(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。
生殖細胞変異原性		(1)~(5)より、区分に該当しない。 【根拠データ】 (1)マウスの骨髄細胞を用いた小核試験(3日間腹腔内投与)で陰性の報告がある(REACH 登録情報 (Accessed May 2021)、CERI 有害性評価書(2007)、NTP CEBS (Accessed May 2021))。 (2)マウス骨髄細胞を用いた染色体異常試験(単回腹腔内投与)で陰性の報告がある(NTP CEBS (Accessed May 2021))。 (3)細菌復帰突然変異試験において、陰性の報告がある(REACH 登録情報/NTP CEBS (Accessed May 2021)、CERI 有害性評価書(2007))。 (4)マウスリンパ腫細胞を用いた遺伝子突然変異試験において、陰性

発がん性 生殖毒性	<p>の報告がある(REACH 登録情報/NTP CEBS (Accessed May 2021)、CERI 有害性評価書 (2007))。</p> <p>(5)ほ乳類培養細胞(CHO)を用いた染色体異常試験において、陰性の報告がある(REACH 登録情報/NTP CEBS (Accessed May 2021)、CERI 有害性評価書 (2007))。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>(1)～(5)より、区分に該当しない。</p> <p><b>【根拠データ】</b></p> <p>(1)ラットを用いた混餌投与及び経皮投与による2つの二世世代生殖毒性試験において、生殖毒性はみられなかったとの報告がある(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。</p> <p>(2)本物質(C12、EO6)を被験物質としたラットを用いた混餌投与による二世世代生殖毒性試験において、生殖毒性はみられなかったとの報告がある(NITE/CERI 有害性評価書 (2007))。</p> <p>(3)ラットを用いた混餌投与による発生毒性試験(妊娠6～15日)において、発生毒性はみられなかったとの報告がある(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。</p> <p>(4)本物質(C12、EO4)を被験物質としたラットを用いた経口投与による試験(交配前から交配、妊娠及び哺育期間)において、交配、妊娠、出産、哺育に異常はみられなかったとの報告がある(NITE/CERI 有害性評価書 (2007))。</p> <p>(5)本物質(C12、EO4)を被験物質としたラット及びウサギを用いた経口投与による発生毒性試験において、催奇形性及び胎児毒性はみられなかったとの報告がある(NITE/CERI 有害性評価書 (2007))。</p>
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>(1)より、区分3(麻酔作用)とした。</p> <p><b>【根拠データ】</b></p> <p>(1)ラットを用いた単回経口投与試験において、300 mg/kg(区分1の範囲)で軽度の嗜眠(6/6例)、下痢や糞尿による肛門周囲の汚染がみられ、2,000 mg/kg(区分2の範囲)で軽度の嗜眠(1/3例)、軽度から中程度の嗜眠(2/3例)、運動失調、呼吸異常がみられ、2例の死亡例の剖検では肛門周囲の湿潤と肺全葉の赤色化がみられたとの報告がある(REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 誤えん有害性	<p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p>

## 12.【環境影響情報】

製品としての情報がないため以下、ポリ(オキシエチレン)＝ドデシル＝エーテルの環境影響情報を記載する。

ポリ(オキシエチレン)＝ドデシル＝エーテル

### 生態毒性

水生環境有害性(急性)	藻類(デスマデスマス属)72時間 ErC50 = 0.237 mg/L (REACH 登録情報, 2021, Bull. Environ. Contam. Toxicol., 2006 76:218-225)であることから、区分1とした。
水生環境有害性(慢性)	急速分解性がなく(標準法におけるBODによる14日間分解度:38%(METI 既存点検結果, 1982))、藻類(デスマデスマス属)の72時間 NOEC = 0.07383 mg/L (Bull. Environ. Contam. Toxicol., 2006 76:218-225)から、区分1とした。

### 残留性・分解性

#### 土壌中の移動性

データなし

データなし

#### 生態蓄積性

データなし

#### オゾン層への有害性

データなし

**13.【廃棄上の注意】****残余廃棄物**

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

**汚染容器及び包装**

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。  
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

**14.【輸送上の注意】****国際規制**

国連番号	危険物として規制されていない。
国連品名	該当しない
国連分類	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない

**国内規制**

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。

**特別安全対策**

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。  
他の危険物のそばに積載しない。

**15.【適用法令】**

労働安全衛生法	該当しない
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	第1種指定化学物質 (アルファ-アルキル-オメガ-ヒドロキシポリ (オキシエタン-1, 2-ジイル))
毒物及び劇物取締法	該当しない
大気汚染防止法	該当しない
海洋汚染防止法	該当しない
消防法	危険物非該当

**16.【その他の情報】****参考文献**

安全衛生情報センター モデル MSDS 情報データベース  
GHS 混合物分類判定ラベル/SDS 作成支援システム(NITE-Gmiccs)  
NITE 総合検索

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における科学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いいたします。

改訂履歴          新規作成          2023年 03月14日